

# 感染症対策に基づいた競技運営マニュアル

[2021.04.01～2022.03.31]

徳島県ハンドボール協会

中体連専門部・高体連専門部

## 参加者全員に求められること

### 試合会場の設営、撤去

- (1) 無理な来場は、勇気をもって見合わせる。
  - ① 体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合）
  - ② 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
  - ③ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- (2) 握手、抱擁などは行わない。
- (3) 社会的距離（できるだけ 2 m、最低 1 m）を確保する。
- (4) マスクを着用する。
- (5) 手洗い、手指消毒をこまめにおこなう。

### 試合日以外に設営作業をおこなう場合

- (1) 作業開始前に体温を測定し、37.5 度以上の場合は参加できない。
- (2) 予め作業に参加する者の名簿を用意し、来場時刻、退場時刻を管理する。
  - 感染者が出た場合、直ちに連絡がとれるよう、連絡先を把握しておく
- (3) 全員が利用可能な場所に、手指消毒液を設置する
- (4) 作業に参加される方に、直近 2 週間の体調不良や濃厚接触がなかったこと等の確認を徹底する。

### 試合日当日に設営作業をおこなう場合

- (1) 作業開始前に体温を測定し、37.5 度以上の場合は参加できない。
- (2) 予め作業に参加する者の名簿を用意し、来場時刻、退場時刻を管理する。
  - 感染者が出た場合、直ちに連絡がとれるよう、連絡先を把握しておく
- (3) 全員が利用可能な場所に、手指消毒液を設置する
- (4) 作業に参加される方に、直近 2 週間の体調不良や濃厚接触がなかったこと等の確認を徹底する。

### 撤収作業

- (1) 予め作業に参加する者の名簿を用意し、来場時刻、退場時刻を管理する。
  - 感染者が出た場合、直ちに連絡がとれるよう、連絡先を把握しておく
- (2) 試合日当日に撤収作業をおこなう場合は、名簿の作成の必要はないが体調の確認は必ず行う。

## 試合会場（アリーナ/体育館）でのゾーニング

### 目的

- (1) できるだけ来場者の人数を少なくすることで、感染リスクを抑える。
- (2) ゾーン分けしておくことで、感染者が出た場合の影響範囲を限定する。
- (3) とくに選手、チームスタッフと接触する人数を最小化する。

### 3つのゾーン分けと導線管理

互いの接触を避ける導線管理をおこなうために、アクレディテーションカード（AD 証）により、許可されたものだけがゾーンにアクセス（通行許可）できる体制を整えること。また、同一ゾーン内においても不要な接触を防止するため必要者以外のアクセスをコントロールすること。

- (1) ゾーン1：競技エリア ● コートおよびその周辺（ジャッジズテーブル、ベンチ、進行席含む） ● 選手入場口 ● 選手および審判員の更衣室
- (2) ゾーン2：運営エリア ● 運営諸室 ● 会見室およびプレスルーム
- (3) ゾーン3：一般来場者エリア ● 会場入場ゲート ● ホワイエ（エントランス） ● スタンド席 ● アリーナ席（※入場ゲートからアリーナ席までの導線がゾーン1及び2を交錯する場合は設置不可）

### 来場者と来場区分

- レベル1（リモートマッチ）ファン・サポーター ✕ 来賓 ✕ 選手、関係者の家族 ✕  
レベル2（入場制限付）ファン・サポーター ✕ 来賓 ✕ 選手、関係者の家族 ▲  
レベル3（入場制限無）ファン・サポーター ▲ 来賓 ▲ 選手、関係者の家族 ▲  
レベル4（通常開催）制限はない

#### 都道府県協会関係者

- (1) チームスタッフ および審判委員会メンバーは、来場を認められる。試合の一週間前までに、協会事務局に届け出ることとする。
- (2) 都道府県協会の役職員は、試合運営上の役割がある場合に限り、来場を認められる。試合の一週間前までに、協会事務局に届け出ることとする。

### 会場運営

来場者全員に求められること

- (1) 以下の場合、勇気をもって見合わせる。 ● 体調がよくない場合（例：発熱、咽、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合） ● 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合 ● 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

- (2) 握手、抱擁などは行わない。
- (3) 社会的距離（できるだけ2 m、最低1 m）を確保する。
- (4) マスクを着用する（プレー中の選手等を除く。）
- (5) 手洗い、手指消毒をこまめにおこなう。

#### 試合会場の衛生管理

- (1) 会場内は常に空調を稼働させ、温度・湿度の管理をおこなう。
- (2) 会場に空調設備が設置されていない場合は、換気備品を導入し、常に換気に努める。
- (3) 使用するすべての部屋に消毒液を設置する。
- (4) トイレの手洗い場には、石鹼（ポンプ型が望ましい）、消毒液を用意する。
- (5) 各諸室ドアはできるだけ開けたままとする。ドアノブに触れる頻度を下げため。
- (6) ゴミの処理は、会場ごとのルールに従い分別し二重にして処分する。

#### 試合会場の入退場管理

- (1) 試合会場のすべての入口で入退場のチェックをおこなう ● 極力使用する入口を最小限にする。
- (2) 入場前に体温を測定し、**37.5 度以上**の場合、入場をお断りする ● 体温測定済みの方を識別する方法を工夫する。または再入場の際も体温を測定する
- (3) すべての入口に手指消毒を設置する。

#### ゾーン毎の導線管理

- (1) ゾーン毎の動線を設定し、人と人の接触を限定する。
- (2) 特にチームとその他の方の接触を最小限に留めるために、ゾーン 1 導線の独立性に留意する

## ハンドボール観戦時に生じるリスク

- (1) 不特定多数の集団が集まるマスギャザリング
- (2) 人混みにおける不特定多数との遭遇、接触
- (3) 試合観戦中の濃厚接触

### 観戦に対する感染防止策

- (1) 自分を守るだけでなく、多くの仲間、選手を守ることを理解の徹底
- (2) 感染が疑われる諸症状がある場合の観戦の見合わせ ● 咳・発熱・倦怠感・咽頭通などが観られる場合には感染をご遠慮いただく(心臓、肺などに疾患がある場合も同様)
- (3) 流行国・外務省から渡航中止勧告がでている地域から帰国した方や、その帰国した方との濃厚接触者への立ち入りを制限
- (4) 入退場時の濃厚接触を減らすための工夫(ゾーニングなど) ● 開門時間の調整、入場前の新たな待機列の設置による入場時の混雑緩和。 ● 対人距離の確保(できるだけ2m、最低1m) ● 規制退場などによる退場ゲート混雑解消など。
- (5) スタジアム入場時の体温チェック ● 37.5℃以上を認めた方は入場をご遠慮いただく ※平常時の体温が低い方は平温と比較して0.5℃以上の上昇を認めた方は入場をご遠慮いただく ● 再検温は1回のみ実施し、脱衣等をおこない最初の検温から5分経過後に実施される。 ● 再検温において、37.5℃以上を認めた方は入場することができない。
- (6) 試合会場内でのマスク着用を呼びかけ
- (7) 応援スタイル(鳴り物等)の変更と観客同士のハイタッチ等、接触の禁止。
- (8) 会場内のあらゆる場所に手指消毒剤を設置する。
- (9) マスクを着用できないため、喫煙場所を使用禁止する。

### 応援スタイルのリスク評価

- (1) 感染リスクが高いため、自粛すべき応援
  - ジェット風船応援 × (飛沫感染リスク)
  - 肩組み、飛び跳ねなど集団での動きの伴う応援 × (接触感染リスク)
  - 立ったり座ったりを繰り返す集団での動きの伴う応援 × (接触感染リスク)
  - 指笛の応援 × (飛沫感染リスク)
  - トランペット・ホイッスル等の鳴り物応援 × (飛沫感染リスク)
  - メガホンを打ち鳴らしながらの声援(自然に歓声が大きくなる) × (飛沫感染リスク)
  - ビッグフラッグ応援(旗の下で多数が密集状態で旗を動かす) × (接触感染リスク)
  - ビッグプレー、ファインプレー等での観客のハイタッチ × (接触感染リスク)
  - 両手をメガホン代わりにした大声での声援、応援 × (飛沫感染リスク)

フラッグ応援（多数が新聞紙大の手旗を振る） ×（接触感染リスク）

(2) 感染リスクが中程度のため、注意すべき応援

コールリーダーによる声の指揮による歌唱＋拍手応援 ▲（自席で手をたたき歌う程度）

太鼓リードによる声援、拍手 ▲

プレーの度の拍手や通常の声援（両手をメガホン代わりに使わない） ▲

サメダンス応援 ▲

応援タオルを回す、応援タオルを横に広げて左右に振る ▲

## 審判員および競技役員（MO、TD）

### 試合会場への到着

- (1) 審判員及び競技役員は、スローオフ時刻の90分前までに試合会場に到着する。タクシーを利用する場合、1台の乗車人数は最大3名までとし、車内換気に努めること。
- (2) 審判員及び競技役員は、各自到着し、任務終了後速やかに退出する。

### 試合当日の体温測定

- (1) 毎日の定時の体温測定は、変わらず実施する。
- (2) 試合会場到着時で、試合会場に入場前に全員の体温を測定する。審判員及び競技役員についても同様とする。
- (3) 37.5 度以上の者がいた場合、次のように処置する。 ● タクシー等で、自宅またはホテルに送り出す。 ● 新型コロナウイルス感染症の疑いがある場合、ドクターまたは連携する医療機関に相談のうえ、診療・検査等の適切な処置を行う。 ● 疑い症状がない場合、適切に経過観察する。

### チーム、審判員及び競技役員に求められること

- (1) 無理な来場は、勇気をもって見合わせる。
  - ① 体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合）
  - ② 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
  - ③ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- (2) 握手、抱擁などは行わない。
- (3) 社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保する。
- (4) マスクを着用する（アップ中、プレー中を除く）
- (5) 手洗い、手指消毒をこまめにおこなう。

### 更衣室（チームおよび審判）

- (1) 更衣室内でも社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保する。 ● 空いている部屋があれば追加の更衣室として利用する（先発と控えて分ける等）。 ● 追加の更衣室が難しい場合、時間をずらすなどの工夫をする。
- (2) 更衣室の滞在時間を、できるだけ減らす（目安：各自30～40分）
- (3) 更衣室内では、必ずマスクを着用する。
- (4) タオル、飲水ボトル等を共用しない。（一人一人に個別のものを用意する）
- (5) シャワー室は、シャワーブース以上の入室は原則禁止とする。人数が多いときは時間をずらして使用することで、人と人との間隔（できるだけ2m、最低1m）を確保する。

## 選手の治療、マッサージ

- (1) トレーナーは、マスク・手袋・手指消毒など標準予防策をとったうえで対応する。
- (2) 環境（使用する器具等）の消毒を行うこと。

## 競技用具、備品の消毒

- (1) 試合開始前にボール、ゴールポスト、チームタイムアウト請求カード、役員カードを消毒する。
- (2) ハーフタイムには、ボール、ゴールポスト、チームタイムアウト請求カードも消毒する。

## モップパー、担架要員

- (1) リモートマッチ（無観客試合）でのモップパー、担架要員はできるだけホームクラブスタッフと開催地役員が担当する。
- (2) モップパー、担架要員の人数をできる限り少なくする。

## オフィシャルミーティング

- (1) オフィシャルミーティングの実施は、着席で実施しなくてもよい。
- (2) 実施の際は、実施場所の広さ、時間に配慮する。
- (3) 出席する者は全員マスクを着用する。

## 試合前のウォームアップ

- (1) サブアリーナの使用 ● 選手、コーチングスタッフはマスクをしなくてよい ● 換気に留意する。
- (2) ジムを使用する場合、次の点に留意する。 ● 社会的距離（できるだけ2 m、最低1 m）を確保する。 ● 器具は使用のたびに消毒する。 ● 身体接触を伴う、または対面での補助は行わない
- (3) メインアリーナでのウォームアップ ● 選手、コーチングスタッフは、マスクをしなくてよい ● 審判員はマスクをしなくてよい

## 選手および審判団のコート入場～スローオフ

- (1) 入場前の混乱を防ぐため、両チームおよび審判団はそれぞれ入場する。（ベンチからの入場が望ましい）
- (2) エスコートキッズは、レベル1～3においては行わない。
- (3) 握手セレモニー、記念品の贈呈、選手や審判員の表彰、来賓などによる各種セレモニー等は、レベル1～3においては、おこなわない。
- (4) チームの集合写真撮影は認められる。但し、社会的距離（できるだけ2 m、最低1 m）を保つこと。
- (5) スローオフ後の相手選手との、タッチなどはおこなわない。

## チームベンチ

- (1) ベンチのチームスタッフはマスクを着用する。ただし、監督・コーチが指示を送る際は、マスクを外してよい。



- (2) 不要な会話・接触は控える。

### 試合中の飲水、暑熱対策

- (1) 飲水ボトルの共用を避ける。 ● たとえ口が直接触れなくても唾液が飛ぶ可能性があり、感染の危険性はある。
- (2) 首の後ろや腋下を冷却する目的の氷嚢（氷をいれた袋を含む）も、共用を避ける。
- (3) 口をつけ、フタをしたボトル等をクーラーボックスに戻すことは、絶対に避ける。

### ゴールセレブレーション

- (1) 社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保って実施する

### ハーフタイム

- (1) 選手、チームスタッフ、審判員等の引き上げ導線が混雑しないよう、予め確認する。
- (2) コート上のモップや松脂落としは、通常と同様に実施される。
- (3) ボールを消毒する。

### 試合終了後のセレモニー

- (1) コート中央での整列、挨拶は通常通りおこなわれる。
- (2) 選手のハイタッチ、握手、抱擁はおこなわない。
- (3) 選手、チームスタッフ、審判員は、すみやかに更衣室に戻る

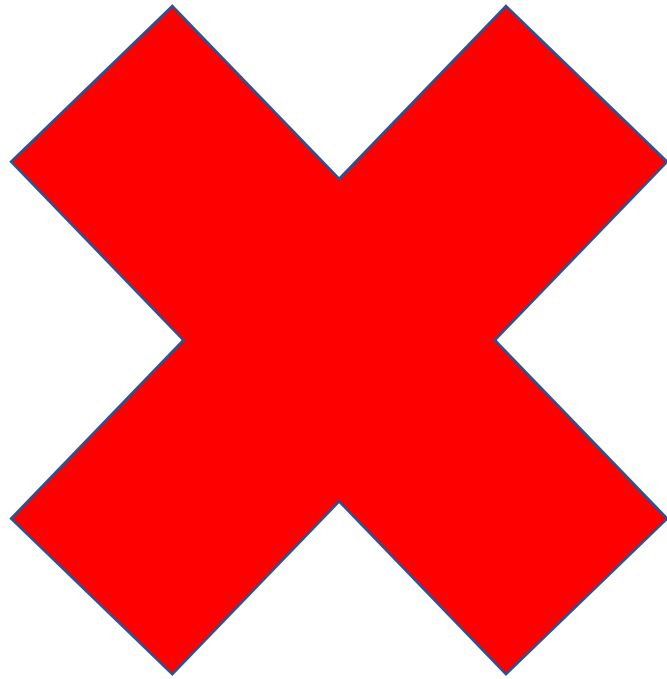
## チーム健康観察表

チーム名									
毎朝の検温結果を記入し、大会当日に提出してください。									
一日でも <b>37.5度以上</b> の発熱がある人は、大会に参加できません									
大会前に発熱者が出た場合は、専門部・協会に報告し指示を仰いでください									
氏名	7日前	6日前	5日前	4日前	3日前	2日前	1日前	当日	二日目

令和 年 月 日  
上記のとおり報告します

# 徳島県ハンドボール協会

感染予防のため、席を空けてください



IDカード「切り取ってチームで用意してください」

## 選手・役員

徳島県ハンドボール協会

## 協会役員・報道

徳島県ハンドボール協会

## チーム関係者・保護者

徳島県ハンドボール協会